

No	基本政策	施策	ページ	区分	発言者	発言内容	対応方針	計画素案 [6.14時点]	計画修正案	
1	基本計画	横断的な視点	34	済み	今村委員	<p>多様性について考えると、基礎データの中に外国人の人口データも含めるべきではないか。外国人留学生、外国人労働者、その家族の問題など、佐賀県の中でも佐賀市はグローバル地域の課題先進地となると考えている。</p> <p>大人も子どもも含めて、外国人の日本語教育や、外国人の子育て問題についても大きなテーマとして考えて欲しい。また、人材確保の観点について、介護福祉士のコースの7割は留学生であり、観光人材も留学生が増えている。地方はより外国人人材のニーズがあり、市の施策として、外国人に対する移住・定住などの国際化についての施策を強く打ち出すべきではないか。</p>	<p>5月16日に開催した総合計画審議会において、今村委員から「国際」の観点についてご意見いただいていたため、第1回総合・地域分科会において「横断的視点」のうち、「②多様性」の中に含める方向で整理していた。前回の分科会で改めて今村委員から「国際」の観点についてご意見いただいたため、新規項目として、「国際性」の項目を追加するといった内容で、総合・地域分科会において検討してもらうこととしている。</p>	<p>●横断的視点 それぞれの分野の枠を超えた横断的な視点として、「主体性」「多様性」「持続性」「柔軟性」「国際性」の5つの視点から横断的に施策を展開します。</p> <p>②多様性…多様性を理解し、尊重する社会へ 社会情勢や構造は常に変化しており、市民の価値観や生活スタイル、ジェンダー、グローバル化などの多様性を認め合う社会の実現が求められています。このような変化を互いに受け入れながら、市民がそれぞれの立場、特性、権利を理解し、尊重した上で支え合い、一人ひとりが豊かな暮らしを送ることができるように、みんなが積極的に協力する社会を目指します。</p>	<p>●横断的視点 それぞれの分野の枠を超えた横断的な視点として、「主体性」「多様性」「持続性」「柔軟性」の4つの視点から横断的に施策を展開します。</p> <p>②多様性…多様性を理解し、尊重する社会へ 社会情勢や構造は常に変化しており、市民の価値観や生活スタイル、ジェンダーなどの多様性を認め合う社会の実現が求められています。このような変化を互いに受け入れながら、市民がそれぞれの立場、特性、権利を理解し、尊重した上で支え合い、一人ひとりが豊かな暮らしを送ることができるように、みんなが積極的に協力する社会を目指します。</p>	<p>●横断的視点 それぞれの分野の枠を超えた横断的な視点として、「主体性」「多様性」「持続性」「柔軟性」「国際性」の5つの視点から横断的に施策を展開します。</p> <p>②多様性…多様性を理解し、尊重する社会へ 社会情勢や構造は常に変化しており、市民の価値観や生活スタイル、ジェンダーなどの多様性を認め合う社会の実現が求められています。このような変化を互いに受け入れながら、市民がそれぞれの立場、特性、権利を理解し、尊重した上で支え合い、一人ひとりが豊かな暮らしを送ることができるように、みんなが積極的に協力する社会を目指します。</p> <p>⑤国際性…グローバルな視点を持ち、世界に開かれた社会へ 技術の進歩や世界経済との結びつきなどを背景に、グローバル化は急速に進展しており、経済や観光、教育などあらゆる分野においてグローバルな視点で物事を捉えることが求められています。 「日本国内の佐賀」だけでなく、「世界の中での佐賀」にも目を向け、地域の魅力を磨きながら発信し、世界に開かれた社会を目指します。</p>
2	序論・基本構想	将来像	24	意見	岡山委員	<p>1つ目に、将来像の「佐賀らしさでみんなが上を向くまち（仮）」について、説明に「佐賀らしさ」が何回も出てきたが、わかりにくいところがあった。最後にバルーンが出てきて見上げるといつながりと思うが、佐賀市の将来像をわかりやすく掲げるにあたり、抽象的なわかりにくいものがあると、伝わるのか懸念がある。例えば、花の都パリや水都ヴェネツィアなどのキャッチコピーがあるため、わかりやすい佐賀市のキャッチコピーがあってもいいのではないかと。豊かな自然と福岡に近い暮らしやすさから、「調和のとれた美しいまち」「おいしい水と空気のまち」「田園未来都市」などを考えている。良いところに住んでいることがイメージできるような言葉にしてほしい。</p>	<p>趣旨等を含め提出し、「総合・地域」分科会で審議を行う。 【参考】「佐賀らしさ」という言葉については、総合・地域分科会でも意見が出されている。定義づけが難しい言葉ではあるが、総合・地域分科会ではどのような佐賀らしさを大切にまちづくりを進めていくべきかというところで議論をされている。 また、ご指摘の将来像の設定の仕方は、佐賀市の良いところをアピールする将来像であり、「おいしい水と空気のまち」や「田園未来都市」といった表現は、どちらかというイメージで整理している。総合計画の将来像としては、素案で示している方向で整理させていただきたい。</p>			
3	序論・基本構想	将来像	24	意見	今村委員 細川委員	<p>「佐賀らしさ」という言葉については、私も違和感がある。特に外から来た人は、佐賀らしさは何かと悩んでしまう懸念がある。一人ひとりが考える多様な佐賀らしさがあってもよいと思う。共通して、誇りに思う、大事にしたいものは何か。私も佐賀らしさとは何かを考えていたが、共通意識が理念になると思う。障がい者計画の協議において基本理念に「フラット」を提案したが、上を見上げるといことは空が広い、平らであることがもとではないか。フラットという言葉は、多様性・ダイバーシティなど対等な関りを表すとともに、遠くまで見える平野が広がっている佐賀の地形を表していると思っている。この場でみんなが対等に参加して議論できていることもフラットだと思う。</p>				

No	基本政策	施策	区 分	発言者	発言内容	対応方針	計画素案 [6.14時点]	計画修正案
4	序論・基本構想	将来像	24	意見 岡山委員	「便利な暮らし」の説明が不足していると感じた。教育や子育てのDX化などにつながると思うが、現代社会ではネット環境は必然であり、それが整った暮らしやすい田舎がイメージできればと思う。	趣旨等を含め提出し、「総合・地域」分科会で審議を行う。		
5	序論・基本構想	将来像	24	意見 岡山委員	将来像の説明文では、①②③④は自然環境という意味合いでまとめられるのではないかと考える。	趣旨等を含め提出し、「総合・地域」分科会で審議を行う。 【参考】平坦で広い平野、温泉等を記載した趣旨については以下のとおり。 市民アンケートや高校生・大学生ワークショップで出された「佐賀らしさ」に対する意見を基にテキストを作成しており、「自然環境」という4文字だけでくるのではなく、いただいた意見を尊重し、できるだけ紹介したいと考え記載している。		
6	序論・基本構想	将来像	25	意見 岡山委員	将来像に向けた目標： 『変化に向き合い挑み続けることで進化し続ける「まち」になろう』 ⇒変化に向き合い挑み続けることで常に進化し続ける「まち」にしよう  将来像に向けた目標では、「変化に向き合い挑み続けることで進化し続ける「まち」になろう」というのは、「しよう」と「なろう」で主語が何になるか、統一した方が良いと感じた。	趣旨等を含め提出し、「総合・地域」分科会で審議を行う。		
7	序論・基本構想	将来像	25	意見 岡山委員	キャリアコンサルタントとしての活動を通じて、佐賀市に対して仕事についてもしっかりと向き合ってもらいたいと思っている。「どんな人も自分らしい「しごと」で新たな価値を生めるまちにしよう」は、何となくはわかるが、それぞれの働き方を実現することで、満足度、幸福度を上げられるまちと捉えている。また、「新たな価値を生めるまちにしよう」について、新たな価値を生めるにあまりイメージがわからないため、他の委員の意見をお伺いしたい。	趣旨等を含め提出し、「総合・地域」分科会で審議を行う。		
8	序論・基本構想	将来像	26	意見 吉村委員	「AI等の最新技術と～～」とあるが、活用することでどう実現できていくのかというイメージがわからなかった。また、時間や期末の余裕ができたとしてもすぐに地域と深く結びつくことは難しいのではないかと感じる。時間と気持ちに余裕ができ、次に地域とつながる経験をして、つながっていることの安心感に気づき、地域での生活に安心を感じるのではないかと感じる。地域につながって、視野が広がり、価値観が変わり、自分なりのこうやりたい、関わりたい、役立ちたいと思っていくと考え、文章を変えた方が良く考える。	趣旨等を含め提出し、「総合・地域」分科会で審議を行う。		

No	基本政策	施策	区分	発言者	発言内容	対応方針	計画素案 [6.14時点]	計画修正案
9	基本計画		8	岡山委員	目指す姿への意見収集について、対応方針に「一定数の意見は聴取できている」という回答であるが、本当にこれで市民の声を反映できているのか。高校生は8人、大学生のワークショップという限られた人数の意見ではないか。また、不特定多数の方へのアンケートであるが、郵送による配布の回収率は28%で、高齢者の回答が多いのではないかと懸念があるため、年齢構成などをお聞きしたい。	回答者数559件（回収率27.9%）のうち、10歳代7件（回収率13.5%）、20歳代37件（14.3%）、30歳代66件（23.2%）、40歳代76件（21.2%）、50歳代95件（26.5%）、60歳代127件（36.9%）、70歳以上133件（38.6%）、無回答18件。 アンケートは、居住地区・年齢・性別等の割合に応じた枚数を送付している。		
10	基本計画		10	岡山委員	高校生ワークショップの市長と意見交換では、今のまちの魅力として、「人、まち、食べ物、自然」という人が多く、魅力についての意見はあるが、魅力じゃない点についても聞くことで課題が出るのではないかと。こうなってほしい、ここを直してほしいということを、オンラインで意見を出せる体制となればよいと感じた。	今回はワークショップ形式で楽しく会議を行うことができるように、魅力やどんな佐賀市になってほしいかという所に主眼をおき実施した。課題については、毎年実施している市民意向調査等で聴取しているところである。アンケートの方法については今後の課題としたい。		
11	基本計画	横断的な視点	34	今村委員	外国人人口が倍増するのも時間の問題となっているが、留学生の比率など、その内訳についてももっとわかるとよい。	外国人人口2,559人のうち、在留資格が留学による者の数は536人、永住者408人、特定技能1号242人等であるが、在留資格の区分は30項目以上あり、詳細で複雑になっているため、前回提出した基礎資料のとおりとしたい。		
12	基本計画	横断的な視点	34	今村委員	大学との連携についての記載は、佐賀に大学が4つもあり集中していることを市民が認識し、市民ももっと大学を活用しようと共有すること意図していた。産学官連携が遅れているなどとは思わず、もっと活用していこうという思いである。	産学官が遅れているため進めてほしいとの趣旨ではなく、大学が佐賀市に集中していることを市民が意識し、市民がもっと大学を活用してほしいとの意図であったとの発言により、修正案の修正を行う。	④柔軟性・・・柔軟性を高め、変わり続ける社会へ AI等の新しい技術の進歩や新しい発想は日々生みだされており、世の中は急速に変化し続けています。これからの時代に適応していくためには、変化やその予測を機敏に察知し、素早く対応していく姿勢が求められます。 時代に取り残されることがないように、変わることを恐れず、新しいものを次々と取り入れていくことで、変わり続ける社会を目指します。	④柔軟性・・・柔軟性を高め、変わり続ける社会へ AI等の新しい技術の進歩や新しい発想は日々生みだされており、世の中は急速に変化し続けています。これからの時代に適応していくためには、変化やその予測を機敏に察知し、素早く対応していく姿勢が求められます。 時代に取り残されることがないように、変わることを恐れず、新しいものを次々と取り入れていくことで、変わり続ける社会を目指します。 <b>また、大学や企業等が集積している利点を生かし産学官連携など、様々な主体と連携しながら取り組むことで、より柔軟で多角的な視点からまちづくりを進めていきます。</b>

No	基本政策	施策	ページ	区分	発言者	発言内容	対応方針	計画素案 [6.14時点]	計画修正案
13	1子育 て・教育	多様な未 来につな げる教育 の推進	35	済 み	吉村委 員	「2こどもたちは、目標を持って主体的に楽しく学んでいる」の主なポイントの3つめ、「こどもたちがいつまでも楽しく学べる環境があること」について、2040年の目指す姿としては、「学ぶ楽しさを知り興味を満喫している」といったもっと掘り下げた記載だとより良いと思う。	「こどもたちがいつまでも楽しく学べる環境があること」については、環境整備の視点を記載しているが、その視点がより明確になるよう、「いつまでも」を削除し、「こどもたちが楽しく学べる環境があること」と記載を修正する。	こどもたちがいつまでも楽しく学べる環境があること	こどもたちが楽しく学べる環境があること
14	1子育 て・教育	地域全体 で支える こどもの 健全育成	36	済 み	谷口委 員	取組み方針の「①家庭・地域・企業・学校が～」の中には、おそらくNPO法人や社会福祉法人等も含まれているとは思いますが、これらの団体についても記載して欲しい。参画するときには多様な手段があるということを示したほうが良いと考える。	NPOや各種団体等地縁型・志縁型双方を包括する「市民活動団体」の表記を追加する。	①家庭・地域・企業・学校が一体となり～ ②リアルとオンライン双方の～	①家庭・地域・企業等・学校等が一体となり～ ②市民活動団体等と協働し、リアルとオンライン双方の～
15	1子育 て・教育		35	意 見	吉村委 員 岡山委 員 細川委 員 今村委 員	「こどもの幸せを何よりも優先するまち」と、最優先という感じは重いのではないかと。目標に「どんな「ひと」も自分らしく幸せに暮らせるまちにしよう」というものがあるため、こどもの幸せを軸としながら、その人らしく楽しく関わるまちが理想なのではないか。子どものためがみなさんのやりがいや成長にもつながる、育ちあえる環境がイメージできるといいと考える。子供の幸せを重視いただくのはありがたいが、「何よりも優先する」という表現は適切か。他にも大事な項目はあるため、市民から意見が来ないか、懸念がある。私は子育てをしているわけではない人が、子どもの1年は早いものであり、大人と比べて優先するというのではありませんかと感じた。当然、子どもは大事で老人は違うという話ではないが、どこに資源を集中するかを考えた時に、子ども優先が豊かさにもつながるといった表現も大事ではないかと思う。「何よりも優先する」というのは引っかかるところがあるが、もしこれを本当にやるのであれば、佐賀市の子育てが最優先として本気でやるために使うのであれば賛成である。そうでなければ、単に掛け声で終わってしまう。政策としてこれを実現していくために事業に取り組むという強い意志があるのか。対象がまちではなく親となっているが、「何よりも優先する」が気になる人もいると思うので、変えるのが良いと思う。	「子育て・教育」では、何よりも子どもを大事にするメッセージとして政策の目指す姿を掲げているため、修正なしとしたい。		
16	1子育 て・教育	こどもた ちの幸せ と健やか な成長を 育む環境 の充実	35	質 問	池田委 員	前回会議の議論で、目指す市民等の姿において「1が子ども・小学生」をイメージしているとあったがわかりづらく、そもそも「子ども」といった時の定義はどうなっているのか。具体的に入れた方が市民にとってわかりやすいのではないかと。	総合計画では、「こども」の詳細な定義はせず、具体的な定義が必要な場合は、総合戦略や個別の計画で定義することとしたい。		

No	基本政策	施策	ページ	区分	発言者	発言内容	対応方針	計画素案 [6.14時点]	計画修正案
17	1子育て・教育		35	意見	今村委員 田口分科会長	「こども家庭庁では、「こども・若者育成支援」を使っている」とあるように、大人と子どもの区切りが18歳はそうであるが、若者という概念が薄いと感じた。行政の管轄もあり、大学生は大人かもしれないが、これからを担う比較的若い人材として若者とすることもよいと思う。 佐賀市の教育委員会などの範囲が中学生までであるため、どうしても県の範疇である高校生に対する取り組みが薄い、総合計画ではあらゆる世代の佐賀市民をサポートしていただきたい。	各法令等によって「若者」の定義はまちまちであるため、若者という言葉は受け取り手によって変わってくる。(国連では15歳から24歳、日本の法律ではおおむね18歳からおおむね30歳未満までの者。施策によっては40歳未満までの者も対象。)そのためP35の4「2040年に目指す市民の姿」では「こどもも大人も」と表記している。		
18	1子育て・教育	こどもたちの幸せと健やかな成長を育む環境の充実	35	意見	田口分科会長	「佐賀らしさ」について、アンケートの結果である「自然の豊かさや人のあたたかさ等」の特質を持った佐賀市の教育については、AI・DXなどのICTの推進とともに、重視する教育内容としてしっかりと入れてほしい。入れないと佐賀らしさが薄れてしまうため、「リアル」について「五感をフルに活用する自然体験あるいは直接体験を十分に味わう教育プログラム」といった内容が想定されるような記載としてほしい。	教育DXや佐賀らしさを実感するような教育など具体的な事業や施策の内容については、総合戦略や個別の計画において記載することとしたい。		
19	1子育て・教育		35	意見	岡山委員	35ページと36ページの関係について、36ページでより詳しく書かれていると認識している。掲載内容として、「1が子育て、2が教育環境、3が地域による子育て」と思っていたが、2ページ間の関係整理はうまくできているのか。もし36ページの2番の教育環境の内容を35ページに反映させるならば、「最新技術等を活用した教育現場を作ること」や「教員が児童に向き合えるような業務改善を行えること」などが入るのではないかと。	「こどもたちが、自ら考え、行動し、生きる力を身につけること」は①、「誰一人、こどもたちを取り残さないこと」は②、「こどもたちが楽しく学べる環境があること」は主にソフトに関することが③、主にハードに関することが④という関係性で整理をしている。		
20	1子育て・教育	多様な未来につなげる教育の推進	36	意見	岡山委員	36ページの2の②・③で、教員のことが書かれているが、これは「誰一人、こどもたちを取り残さないこと」にリンクしているとあったが、あまり結びつかないため、もっと文言があればよいと思う。	取組方針③は「こどもたちが楽しく学べる環境があること」とリンクをしている。教員のことについては、教育環境のソフト面の整備に含まれると認識をしている。		
21	1子育て・教育	多様な未来につなげる教育の推進	36	意見	近藤委員	36ページの2-④番のユニバーサルデザインでは、物的な整備が大半であるが、学校現場では思いやりや多様性などの人的環境のユニバーサルデザイン化もあるのではないかと。それが感じられる文言があればよいと思う。	思いやりや多様性などの人的環境のユニバーサルデザインももちろん大切であると認識をしており、その部分については②に含まれている。		

No	基本政策	施策	ページ	区分	発言者	発言内容	対応方針	計画素案 [6.14時点]	計画修正案
22	1 子育て・教育	多様な未来につながる教育の推進	36	意見	岡山委員 吉村委員 近藤委員 今村委員	<p>36ページの2の②で「誰一人取り残すことのない教育」教育とはどのようなものか。「取り残す」「取り残さない」という言葉はマイナスのイメージがあり、プラスの表現として、「子どもたちの個性が認められ、学校教育を通じて教育の大切さを推進していきます」などとしてはどうか。</p> <p>35ページに「誰一人、こどもたちを取り残さないこと」とあり、36ページに同じような言葉となっているため、書き直すのが良いと感じた。皆が楽しく学べるようにという、インクルーシブ教育などの言葉を使ってはどうか。</p> <p>「誰一人取り残さない」は国やSDGsで使っていることは知っているが、一般向けには難しいため、「全ての子どもたちに学びと育ちを保障する教育」など、やわらかい・わかりやすい言葉が良いのではないかと。</p> <p>確かに「令和の日本型教育」で使われているが、その副題は「多様な子供たちの資質能力を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」と書いてある。そこまで書かれればわかるが、人によってはネガティブにとらえられる恐れがあるので、「個別最適」「社会と繋がる」「協働的な学び」など、言葉を捕捉されるとよい。</p>	P35の主なポイントとP36の取組方針の記載が重複していたため、取組方針を修正する。	②誰一人取り残すことのない教育を推進します	②多様な教育ニーズに対応し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図り、全てのこどもたちの可能性を最大限に伸ばす教育を推進します。
23	2 健康・福祉	地域共生社会をめざす福祉の充実	38	済み	谷口委員	<p>若年層の自殺率は先進国の中でも高いため、社会的孤立というフレーズは計画内に記載があっても良いと思う。孤立化を防ぐためにもみんなで繋がりあうという考え方が大事だと思う。今後は、高齢者、若者、こどもなどの社会的孤立に関する横断的な課題が積みあがってくると思う。それに対応する形での教育・福祉という枠組みを超えて共同で人材を確保し担い手不足を解消する戦略と施策展開が必要となってくる。また、各支援者の役職（PTA、民生委員など）に応じた役割の整理が負担軽減のためにも必要だと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的孤立の問題について、取組方針に追加</li> <li>・人材の確保、担い手不足について、取組方針を新たに追加</li> </ul>	<p>○みんなが地域づくりに参加すること</p> <p>③互いに見守り支え合うネットワークづくりを推進し、課題を抱える人の早期発見等、安心して暮らすことができる地域づくりを進めます。</p>	<p>③互いに見守り支え合うネットワークづくりを推進し、<b>孤独・孤立などの課題</b>を抱える人の早期発見等、安心して暮らすことができる地域づくりを進めます。</p> <p>⑥<b>担い手のすそ野を広げるために、これまで関わる機会が少なかった人や、多様な主体と連携を図ることで、誰もが様々な形で地域づくりに参加できる仕組みを作ります。</b></p>
24	2 健康・福祉	地域共生社会をめざす福祉の充実	38	済み	池田委員	<p>高齢者・認知症・障がい者など特定の人を対象にしている印象を受ける。地域住民すべての人が対象ではないか。また、P.48のコミュニティの「2自分らしく幸せに暮らす社会の実現」について、地域共生社会の実現も含まれていると考えるため、健康・福祉の分野との関連性を整理する必要があるのではないかと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活困窮者、障がい者、高齢者などの文言を削除し、就労をキーワードに誰にでも当てはまるよう⑤⑥⑦を集約修正</li> <li>・コミュニティの分野では、「共生社会」の実現とされているが、福祉分野においては「地域共生社会」として整理している。</li> </ul> <p>【意見・質問一覧表】        主なポイント「みんなが地域づくりに参加すること」        ⇒「誰もが様々な形で地域づくりに参加できること」        →主なポイントを修正        →取組方針を追加</p>	<p>○みんなが地域づくりに参加すること</p> <p>⑤生活困窮者等の就労や自立支援に向けて、行政・関係支援機関が連携を図り、地域社会への参加を促進します。</p> <p>⑥障がい者が地域で安心して自立した日常生活を送ることができるよう、就労による工賃向上の取組や地域生活支援を推進します。</p> <p>⑦高齢者の就労や社会貢献等の活動の場や機会を充実させることで、仲間づくりや生きがいを推進します。</p>	<p>○みんなが地域づくりに参加できること</p> <p>⑤<b>就労が困難な状況にある方が、自立して地域生活を送ることができるよう、行政・関係支援機関が連携を図り、就労支援を通して地域社会への参加を促進します。</b></p> <p>⑥<b>担い手のすそ野を広げるために、これまで関わる機会が少なかった人や、多様な主体と連携を図ることで、誰もが様々な形で地域づくりに参加できる仕組みを作ります。</b></p>

No	基本政策	施策	区 分	発言者	発言内容	対応方針	計画素案 [6.14時点]	計画修正案
25	2 健康・福祉	地域共生社会をめざす福祉の充実	38	済み 岡山委員	こども、若者、高齢者も含むそれぞれの世代の人が、困ったときにどこに相談したらいいのか分からないという問題について、視野を幅広く持ち体制の充実を図ることが大事だと思う。例えばNPO法人等との提携やチャット相談の窓口などの対策が考えられる。	【子育て】子育て分野においては、令和7年度から「こども家庭センター」を設置して、こどもや子育てに関する総合的な窓口を設置して、市民の困りごとに一元的に対応する。相談に応じて、適切な窓口の案内等を行う。 【福祉】NPO法人等との提携やチャット相談窓口などの対策という意見について、取組方針を修正 【意見・質問一覧表】 主なポイント「みんなが地域づくりに参加すること」 ⇒義務的に感じられる →主なポイントを修正 「みんなが地域づくりに参加できること」	【福祉】○多様な手段による相談の受け止めや支援体制があること ①どこに相談してよいか分からない方や複合化・複雑化した相談を抱える方に対し、アウトリーチによる相談支援や伴走型支援を推進します。	【福祉】○多様な手段による相談の受け止めや支援体制があること ①どこに相談してよいか分からない方や複合化・複雑化した相談を抱える方に対し、アウトリーチなど多様な手段による相談の受け止めや、伴走型支援を推進します。
26	2 健康・福祉	地域共生社会をめざす福祉の充実	38	済み	(事務局) 関連する主な個別計画に誤りがあったため修正する。		地域福祉計画、高齢者福祉計画	地域福祉計画・地域福祉活動計画、高齢者保健福祉計画
27	2 健康・福祉	地域共生社会をめざす福祉の充実	37 38	意見 坂井委員	独居老人は一人で生活することが難しい場合が多く、フォローでは難しく、どこかにそういった人を集めて、生活の拠点を設けてはどうかという意図であった。見守りします、病院への通院や日頃の買い物を補助しますもよいが、まだ介護認定されていない人などを寮に集めて暮らしてはどうかという意図であった。	生活に不安のある独居高齢者等が安心して快適な生活を送るための拠点として、団地内に生活援助員を配置するシルバーハウジング（市営江頭団地・県営六座町団地）や入居者の生活支援を行う生活支援ハウスなごみ（富士町）の運営を行っている。また、これらの事業は佐賀市高齢者保健福祉計画（令和6年度～令和8年度）の中で「在宅生活の継続支援」や「生活環境の整備」に関する施策として位置づけている。		
28	2 健康・福祉	日頃から取り組む健康づくりの推進	38	意見 坂井委員	最後の特定健診については、勧奨していても対応は3割程度である。はがきによる勧奨のやり方を変えて、訪問医療の充実なども取り組みとして追加してはどうか。	佐賀県の訪問診療体制は全国に比べて充実しているが、高齢化の進展により、2040年以降に患者数がピークを迎えるとされている。このため、日ごろから、特定健診を受診することや、かかりつけ医を持つこと等、引き続き、健康意識を高める取組みを進めていく。		
29	2 健康・福祉	日頃から取り組む健康づくりの推進	38	意見 岡山委員	No15の意見について、未受診の方に勧奨はがきを送付されているとあったが、現代社会では高齢者でもスマホを持っている方もいるため、佐賀市のアプリを入れて健診を受けたら反応があるというのもよい方法ではないか。例えば、佐賀県では「SAGATOCO」というウォーキングアプリがあり、そういったアプリがあればと思う。	佐賀市の公式アプリで特定健診の情報を発信しているが、佐賀市が実施している特定健診は、佐賀市国保に加入者している方に限られているため、ダイレクトでの案内については、はがきの方法をとっている。広報のあり方については、引き続き、改善を図っていく。		

No	基本政策	施策	ページ	区分	発言者	発言内容	対応方針	計画素案 [6.14時点]	計画修正案
30	2 健康・福祉	地域共生社会をめざす福祉の充実	37	意見	池田委員	<p>私たちが地域の方にいろいろな提案をしているが、37ページの「みんなが地域づくりに参加すること」などと言ったら、「上から目線でものを言うな」と炎上してしまう。やわらかい言葉で書いていただくとともに、参加という形がそこに行くだけでなく、お金や物、場所を提供するなど、様々な形に多様化しているということも意識していただきたい。</p>	<p>参加という形が多様化している、という意見について、 ○みんなが地域づくりに参加できること ⑥担い手のすそ野を広げるために、これまで関わる機会が少なかった人や、多様な主体と連携を図ることで、誰もが様々な形で地域づくりに参加できる仕組みを作ります。 このとおり修正案に反映している。</p>		
31	2 健康・福祉	地域共生社会をめざす福祉の充実	37	意見	荒木委員	<p>全ての施策に共通することであるが、行政が何かをしようとしても市民に響かなければ意味はないと考えている。「みんなが地域づくりに参加すること」の箇所は今回修正いただいたが、市民に誤解なく、響くような提案を行い、それをどうやって周知するかが重要と考えている。行政でできることは範囲が限られているが、そのできないところをNPOなどと共同で取り組んでいければと思う。そういった言葉を関係する箇所に入れていただきたい。</p>	<p>できないところをNPOなどと共同で取り組んで行ければ、という意見について、 ○みんなが地域づくりに参加できること ⑤～行政・関係支援機関が連携を図り～ ⑥～多様な主体と連携を図る～ ○多様な手段による相談の受け止めや支援体制があること ②～行政や各種相談支援機関等とのネットワークを強化し～ この中に含むものとして修正案に反映している。</p>		
32	2 健康・福祉		37	意見	池田委員	<p>究極に福祉は何かを考えると、「権利を守る」ことが大きな意味を持つと考える。そう考えると、子育て・教育・健康・福祉という分野であれば、どこかで「権利を守る」という言葉がどこかにあってもよいのではないかと。計画では、コミュニティ分野の「自分らしく幸せに暮らす社会の実現」において、人権という言葉も出ているが、教育福祉においてもどこかに追加してほしい。</p>	<p>【全体的な考え方】この総合計画では、権利について重視し、全体的に取り組むという観点から34ページ②多様性の部分に全体的に取り組む横断的な視点として掲載させていただいている。 【福祉】「権利を守る」という言葉をどこかに追加してほしいとの意見について、取組方針を修正</p>	<p>○多様な手段による相談の受け止めや支援体制があること ②多様な福祉ニーズに適切に対応するため、行政や各種相談支援機関等とのネットワークを強化し、包括的な支援を推進します。</p>	<p>○多様な手段による相談の受け止めや支援体制があること ②多様な福祉ニーズへの適切な対応や、生活や財産などの権利を擁護する取組を進めるため、行政や各種相談支援機関等とのネットワークを強化し、包括的な支援を推進します。</p>